

2026年9月30日

8月の鉱工業生産は、自動車工業や汎用・業務用機械工業などが低下したことから、全体として前月比マイナス1.7%と、2か月連続の低下。基調判断は、「一進一退」に据え置き。

公表概要 鉱工業指数

- 8月の生産は2か月連続の前月比低下
- 全15業種のうち12業種が低下
- 出荷は2か月ぶりの低下
- 在庫は3か月ぶりの低下
- 在庫率は2か月ぶりの上昇
- 9月と10月の2か月を通じた生産計画
- 業種別にみた生産計画
- 8月の生産の基調判断は、「一進一退」に据え置き

8月の生産は2か月連続の前月比低下

2026年8月の鉱工業生産は、季節調整済指数102.6、前月比マイナス1.7%と低下となりました。

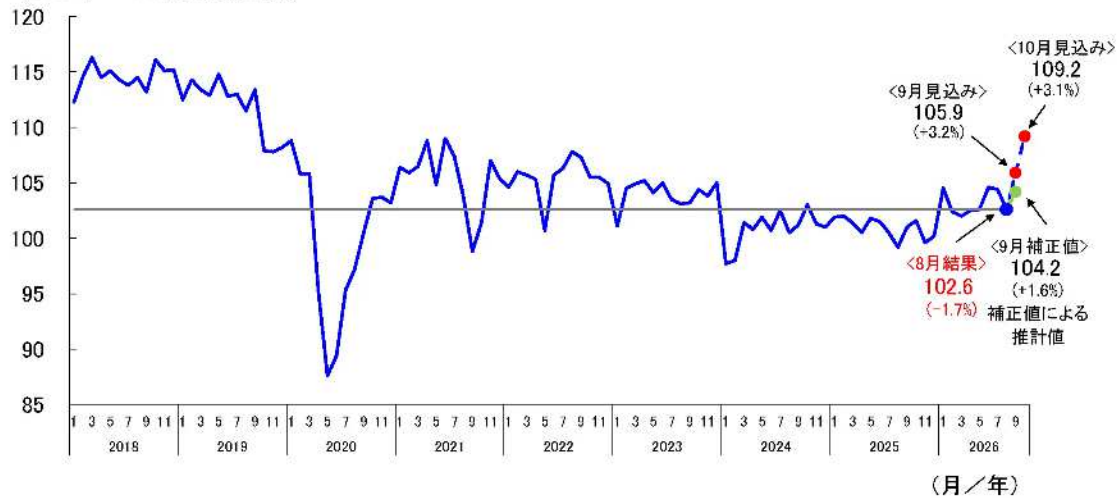
これまでの生産の動向については、2025年12月、2026年1月と2か月連続で上昇、2月、3月と2か月連続で低下となりましたが、4月、5月、6月と上昇、7月は低下※となり、8月も自動車工業や汎用・業務用機械工業などが低下したことから、全体として2か月連続の低下となりました。

※7月速報時点では上昇でしたが、確報で下方修正となり、低下となりました。

鉱工業生産指数の動向と先行き

・2026年8月の鉱工業生産指数は、102.6(前月比-1.7%)と2か月連続の低下。

(2020年=100、季節調整済)



(注) 鉱工業生産指数(1ptとは、月々の鉱工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、2020年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など
鉱工業全体の動きを示す代表的な指標
(注) 補正值は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鉱工業生産の動きをより適切に把握できるように試算したもの
(注) 見込みの前月比は、製造工業生産予測指数の前月比を記載している

3

全15業種のうち12業種が低下

8月の鉱工業生産を業種別にみると、全15業種のうち12業種が前月比低下、3業種が同上昇という結果でした。

自動車工業や汎用・業務用機械工業などが低下したことから、全体として低下しました。

2026年8月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(業種別)

・2026年8月の鉱工業生産指数は、102.6(前月比-1.7%)と2か月連続の低下。

	業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	-6.8%
	品目	普通乗用車	-5.7%
	品目	小型乗用車	-17.3%
	2位の業種	汎用・業務用機械工業	-6.0%
	品目	コンベヤ	-31.2%
	品目	運搬用クレーン	-31.8%
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	3位の業種	石油・石炭製品工業	-13.3%
	品目	ガソリン	-12.4%
	品目	軽油	-20.7%
	1位の業種	生産用機械工業	6.1%
	品目	金型	30.0%
	品目	個装・内装機械	56.4%
	2位の業種	輸送機械工業(除:自動車工業)	2.9%
	品目	航空機用発動機部品	9.6%
	3位の業種	化学工業(除:無機・有機化学工業・医薬品)	0.7%
	品目	仕上用化粧品	14.9%
	品目	柔軟仕上げ剤	13.8%

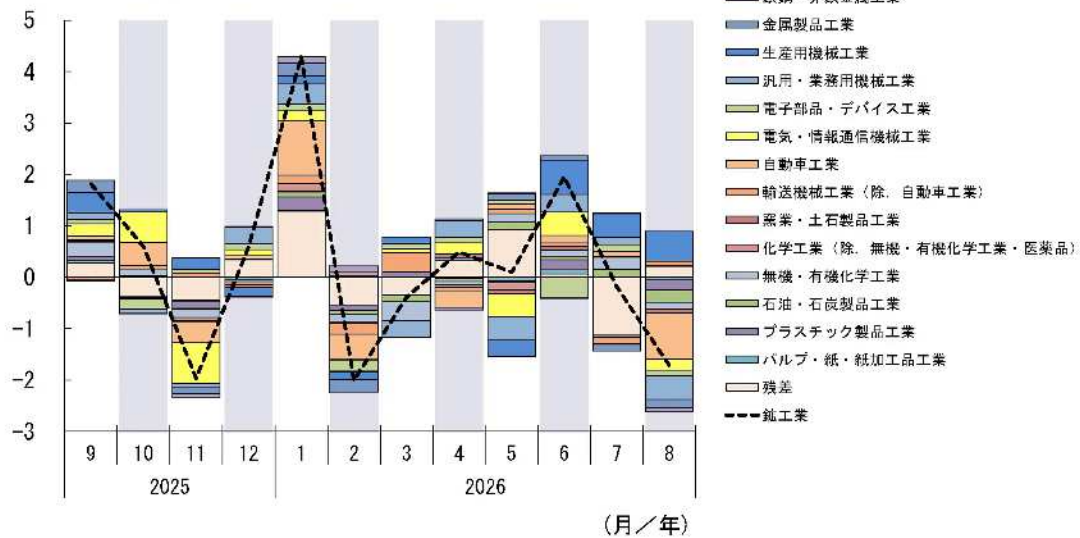
※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。
寄与度: 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。
季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

4

鉱工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2026年8月の生産指数は、生産用機械工業などが上昇したものの、自動車工業などが低下したため、前月比-1.7%と低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



(注)「残差」は、鉱工業生産全体の変動から主要14業種の影響度を差し引いたものである。

低下寄与度が最も大きかった自動車工業では、普通乗用車、小型乗用車等が主な低下要因となっています。次に低下寄与度が大きかった汎用・業務用機械工業では、コンベヤ、運搬用クレーン等が主な低下要因となっています。

一方、上昇寄与度が最も大きかった生産用機械工業では、金型、個装・内装機械等が主な上昇要因となっています。次に上昇寄与度が大きかった輸送機械工業（除、自動車工業）では、航空機用発動機部品等が主な上昇要因となっています。

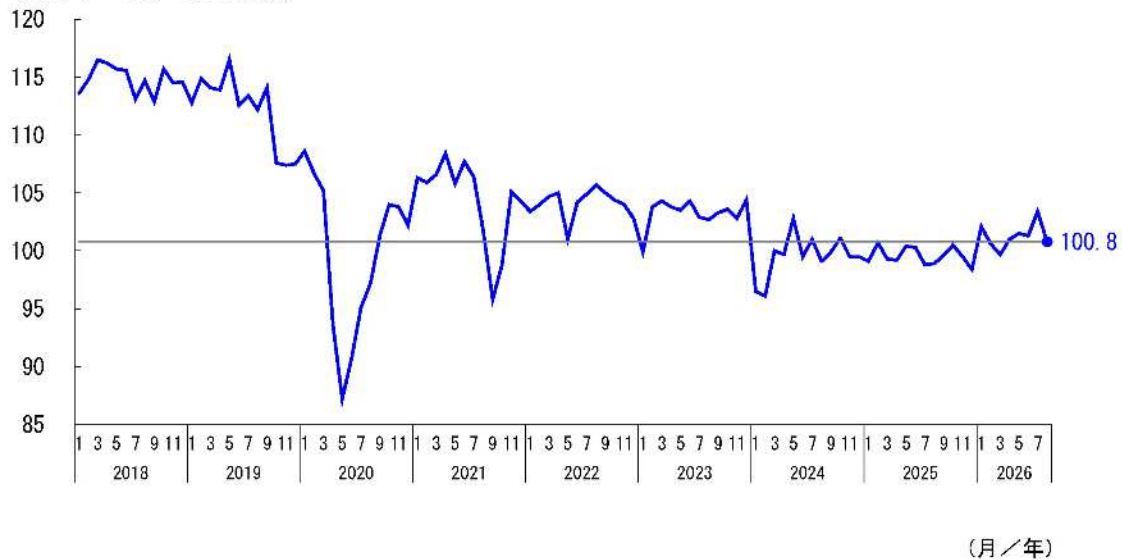
出荷は2か月ぶりの低下

8月の鉱工業出荷は、季節調整済指数100.8、前月比マイナス2.5%と、2か月ぶりの低下となりました。

鋳工業出荷指数の動向

・ 2026年8月の鋳工業出荷指数は、100.8(前月比-2.5%)と2か月ぶりの低下。

(2020年=100、季節調整済)



7

業種別にみると、全15業種のうち14業種が前月比低下、1業種が同上昇という結果でした。

8月は、自動車工業や輸送機械工業（除．自動車工業）などが低下したことから、全体として低下しました。

低下寄与度の最も大きかった自動車工業では、普通乗用車、自動車用エンジン等が、次に低下寄与度が大きかった輸送機械工業（除．自動車工業）では、船用ディーゼル機関、航空機用機体部品等が主な低下要因となっています。

一方、上昇した生産用機械工業では、金型、個装・内装機械等が主な上昇要因となっています。

2026年8月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目（業種別）

・2026年8月の鉱工業出荷指数は、100.8（前月比-2.5%）と2か月ぶりの低下。

	業種・品目名		前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業出荷を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	-5.9%	-1.00%pt
	品目	普通乗用車	-6.5%	-0.48%pt
		自動車用エンジン	-8.8%	-0.12%pt
	2位の業種	輸送機械工業（除、自動車工業）	-19.5%	-0.55%pt
	品目	船用ディーゼル機関	-31.4%	-0.09%pt
		航空機用機体部品	-5.2%	-0.02%pt
	3位の業種	汎用・業務用機械工業	-7.3%	-0.50%pt
	品目	複写機	-31.4%	-0.10%pt
		汎用内燃機関	-17.5%	-0.10%pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業出荷を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	生産用機械工業	5.2%	0.44%pt
	品目	金型	29.1%	0.09%pt
		包装・内装機械	58.8%	0.08%pt
	2位の業種	—	—	—
	品目			
	3位の業種	—	—	—
	品目			

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

在庫は3か月ぶりの低下

8月の鉱工業在庫は、季節調整済指数97.6、前月比マイナス0.5%と、3か月ぶりの低下となりました。

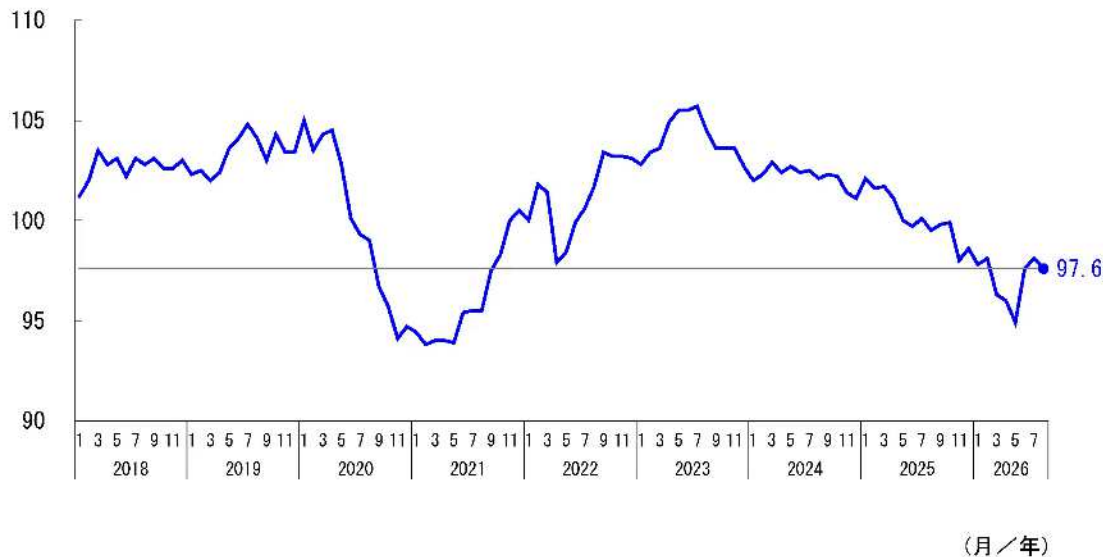
業種別にみると、全15業種のうち、7業種が前月比低下、6業種が同上昇、2業種が同横ばいとなりました。

低下寄与度の最も大きかった石油・石炭製品工業では、ガソリン、灯油等が主な低下要因となっています。一方、上昇寄与度が最も大きかった無機・有機化学工業では、ポリエチレン、合成ゴム等が主な上昇要因となっています。

鉱工業在庫指数の動向

・2026年8月の鉱工業在庫指数は、97.6(前月比-0.5%)と3か月ぶりの低下。

(2020年=100、季節調整済)



11

2026年8月の鉱工業在庫指数を大きく動かした品目(業種別)

・2026年8月の鉱工業在庫指数は、97.6(前月比-0.5%)と3か月ぶりの低下。

	業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業在庫を低下方向へ引く3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	石油・石炭製品工業	-15.0%
	品目	ガソリン	-28.5%
	品目	灯油	-19.8%
	2位の業種	自動車工業	-3.3%
	品目	普通トラック	-12.6%
	品目	小型乗用車	-15.9%
【上昇方向に寄与】 鉱工業在庫を上昇方向へ引く3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	3位の業種	電子部品・デバイス工業	-3.3%
	品目	アクティブ型液晶パネル(大型)	-46.9%
	品目	トランジスタ	-7.2%
	1位の業種	無機・有機化学工業	2.8%
	品目	ポリエチレン	11.3%
	品目	合成ゴム	4.4%
	2位の業種	プラスチック製品工業	2.5%
	品目	プラスチック製フィルム・シート	3.0%
	品目	プラスチック製容器(中空成形)	3.2%
	3位の業種	化学工業(除 無機・有機化学工業・医薬品)	1.7%
	品目	溶剤系合成樹脂塗料	9.6%
	品目	頭髮用化粧品	3.2%

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

12

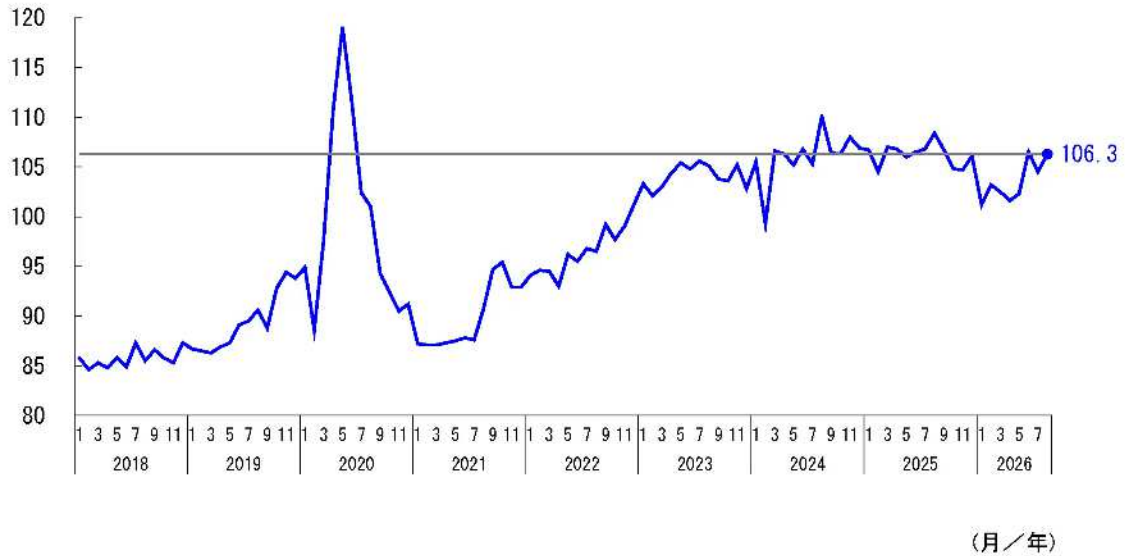
在庫率は2か月ぶりの上昇

8月の鉱工業在庫率は、季節調整済指数106.3、前月比1.7%と、2か月ぶりの上昇となりました。

鉱工業在庫率指数の動向

・ 2026年8月の鉱工業在庫率指数は、106.3(前月比1.7%)と2か月ぶりの上昇。

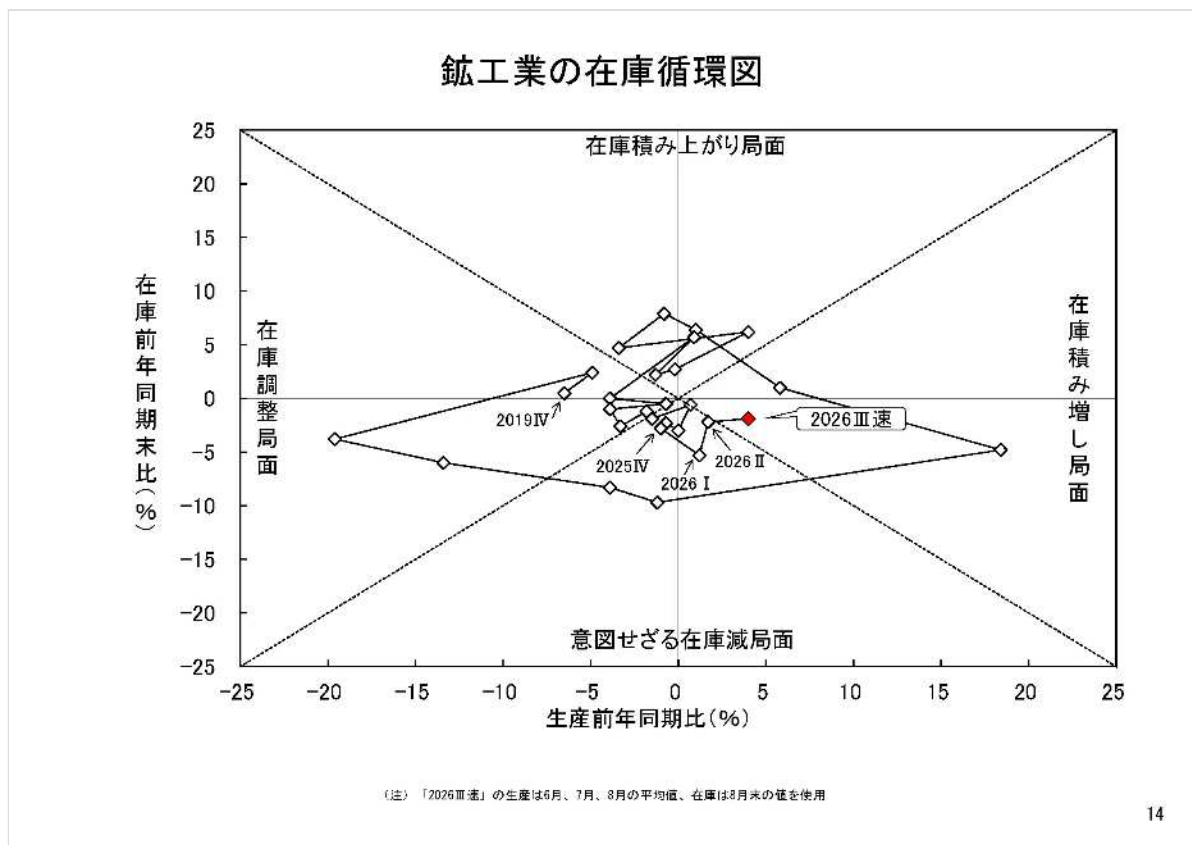
(2020年=100、季節調整済)



13

在庫循環図をみると、2021年第3四半期までは、「在庫積み増し局面」にあり、同年第4四半期から2023年第2四半期までの期間は、「在庫積み上がり局面」に位置していましたが、2023年第3四半期には、「在庫調整局面」に達し、2024年第4四半期には、「在庫調整局面」を抜け出て「意図せざる在庫減局面」に入り、その後2025年第1四半期には「在庫積み増し局面」に入りました。2025年第2四半期には再び「意図せざる在庫減局面」に戻りましたが、2026年第3四半期（速）においては「在庫積み増し局面」に位置しています。

これまで、一部の業種において、積極的に在庫の削減に取り組まれてきたと考えられ、その効果が顕在化されてきた可能性があります。今後の動向に注視していく必要があります。



9月と10月の2か月を通じた生産計画

続いて、製造工業生産予測指数に基づいて、9月と10月の2か月を通じた生産計画について見ていきます。

9月の生産計画では、前月比3.2%の上昇を見込んでいます。この計画どおりに生産されれば、9月の鋳工業生産の実績は、3か月ぶりの上昇が見込まれます。

また、10月の生産計画については、9月の計画から前月比3.1%の上昇となる見込みです。

生産計画は、生産実績よりも上振れする傾向があります。9月の生産計画について、生産実績との間で生じるズレを統計的に補正すると、9月の生産実績の見通しは、前月比1.6%と上昇する見込みです。

製造工業生産予測指数（当月、翌月の生産伸び率）

	8月調査 (前回)		9月調査 (今回)	9月調査 補正值
9月見込み	-4.2 %	⇒	3.2 %	1.6 % (0.4%~2.8%)
10月見込み	—		3.1 %	—

（参考） 前回調査の結果

	8月予測調査	8月補正值	実際の結果 鉱工業生産指数
8月前月比	6.4 %	3.1 % (1.5%~4.7%)	-1.7 %

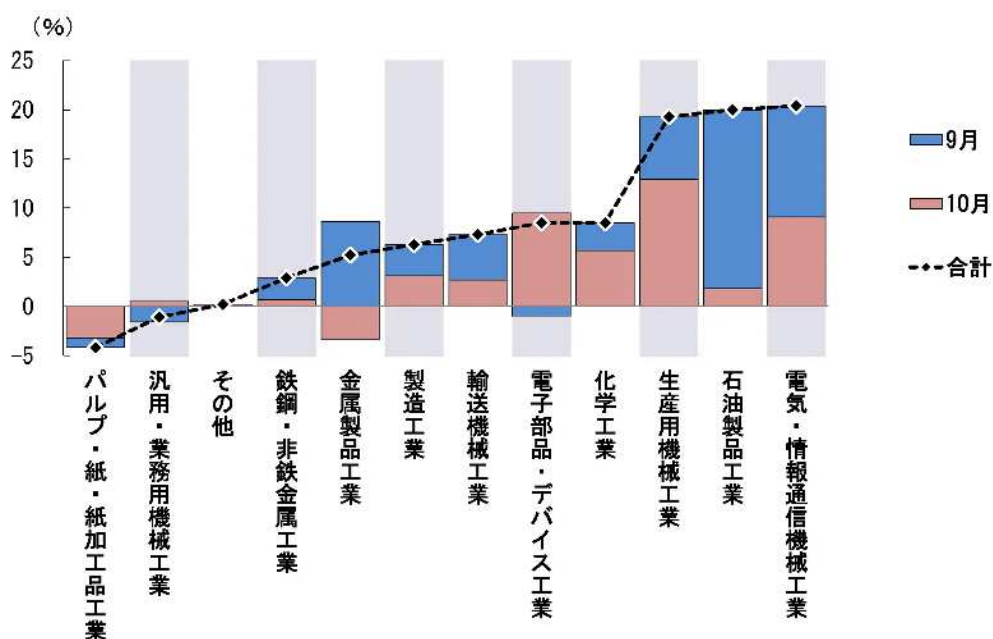
16

業種別にみた生産計画

9月と10月の2か月の生産計画による業種ごとの生産予測の伸び率を通じてみると、以下の図のようになります。

9月の生産計画では、11業種中7業種が前月比上昇、3業種が同低下、1業種が同横ばい、10月の生産計画では、9業種が前月比上昇、2業種が同低下の計画となっています。

2か月の生産予測伸び率（製造工業生産予測指数）



17

9月の生産計画は、電気・情報通信機械工業、輸送機械工業などの上昇により、全体としては上昇の見込みです。

2026年9月生産計画の寄与順位表

[illegible]

(注) 業種の並びは、寄与(影響度)が大きい順。

18

10月の生産計画は、生産用機械工業、電子部品・デバイス工業などの上昇により、全体としては上昇する見込みです。

2026年10月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
生産用機械工業	12.9%	金属製品工業	-3.4%	—	—
電子部品・デバイス工業	9.5%	パルプ・紙・紙加工品工業	-3.2%		
電気・情報通信機械工業	9.1%				
化学工業	5.7%				
輸送機械工業	2.7%				
鉄鋼・非鉄金属工業	0.7%				
石油製品工業	1.8%				
汎用・業務用機械工業	0.5%				
その他	0.2%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

19

8月の生産の基調判断は、「一進一退」に据え置き

2026年8月の鉱工業生産は、前月比マイナス1.7%と低下しました。

これまでの生産の動向については、2025年12月、2026年1月と2か月連続で上昇の後、2月、3月と2か月連続で低下となりましたが、4月、5月、6月と上昇、7月は低下となり、8月も自動車工業や汎用・業務用機械工業などが低下したことから、全体として2か月連続の低下となりました。

先行きに関しては、企業の生産計画では、9月、10月ともに上昇を見込んでおり、企業の生産計画は、しばしば実績から上振れする傾向があることから、こうした影響も考慮する必要があります。

また、こうした状況も踏まえ、鉱工業生産の8月の基調判断については、「一進一退」に据え置きます。

なお、今後は、世界経済の動向などについて、注視してまいります。

鉱工業指数の結果概要のページ

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

製造工業生産予測指数の結果概要のページ

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/yosoku/result-1.html>

参考図表集

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/reference/slide/result-iip-sanko-202608s.html>

マンガ「ビジネス環境分析にも使える！鉱工業指数(IIP)」

https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/slide/20170329iip_manga2017.html

お問合せ先

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話: 03-3501-1511 (代表) (内線2853)、03-3501-1644 (直通)

E-MAIL: bz1-qcceb1meti.go.jp (■を@に置き換えてください)